

SGH「アジア探究～文系」レポート17

1月17日 メモリーハンティング研修 in 神戸

SGHのプログラムでお世話になっている京都大学地域研究統合情報センター(CIAS)では「災害対応の地域研究」が展開されています。この中で、同センターの山本博之准教授・西芳実准教授がインドネシア・スマトラ島の地震・津波災害に関連するスマホアプリの開発研究を進め、1月17日(土)神戸で実地研修が開催されました。

当日は北野高校のSGHから生徒4名、インドネシア・アチェ州から招聘された大学教員・院生、「メモリーハンティング」というアプリそのものを開発された北本朝展先生(国立情報学研究所)等も加わり、神戸の市街地を歩いて、英語やインドネシア語を交えながら2時間ほど研修を行いました。

今回使わせていただいたアプリは防災をこえて、様々な分野に応用が可能です。貴重な機会を与えてくださった方々にお礼申し上げます。

なお、スマホアプリの概要やダウンロードについてはCIASの該当webページをご覧ください。



三宮の駅前で研修



記念撮影



インドネシアの教員・院生の皆さんからの記念品
アチェ州の火山岩でできているそうです
阪神・淡路大震災から20年、アチェの津波災害から10年が経過しました